

佐世保市小型まき網漁業ビジネスモデル計画

【ダイジェスト版】

背景

【策定：佐世保市漁協小型まき網漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

佐世保市内6漁協の水揚げは約8万t(金額149億円)であり、水揚量の9割がまき網漁業による。主な漁獲物であるカタクチイワシは主として加工原料や養殖用餌料として利用されているが、カツオ一本釣り用の活餌としての需要が高まる中、当地区は産地として注目されている。

ビジネスモデル参加経営体は活餌用にカタクチイワシの漁獲・販売を行っているが、更なる収益性向上のため経営の多角化等の経営改革が必要となり、モデル計画策定に取り組むこととなった。

課題



蓄養量の限界

カタクチイワシの蓄養可能量が小さく能力を越えると休漁



休漁期の収入源の確保

カタクチイワシの漁獲がない夏場は休漁
(作業員は非年間雇用)



労働環境の改善

網の洗浄は非常に重労働



新たな販路開拓

カツオ一本釣りの活餌以外の販路なし

取組の方向性

収益性の改善を図るためストック機能を高めるとともに、休漁期の代替魚種の開発による周年操業体制の確立や作業負担の軽減が必要

計画内容

蓄養筏の増設(5台 15台へ)

蓄養能力の向上による休漁解消と販売量増
(409t 494t)

カタクチイワシ漁のない7~9月は 養殖用種苗として小型サバを漁獲

周年操業による新たな収入源の確保
(実績なし 3t)

網洗浄機器の導入

労働環境の改善(作業負担・作業時間減)

水族館への鑑賞用カタクチイワシの 売り込み

新たな販売先の開拓(実績なし 2t)
、 、 部分で県支援事業活用予定

地域を牽引する ビジネスモデルへ

収益増による安定
した経営体制の確立

安定した雇用と
労働環境の改善

経営の多角化

KPI(重要成果指標)

付加生産額

(営業利益・人件費・減価償却費)

新たな雇用

H27(基準年)

2,113万円

9人

H30(目標年)

3,791万円

11人

